



副代表幹事  
企業経営委員会 委員長

**菅田 史朗**

ウシオ電機  
取締役社長

### Contents

■特集	
震災復興の現場から—岩手編	02
震災後、今だから語れること —地元企業の復興と震災の教訓	
■Doyukai Report	
2012年度米州委員会 ミッション報告と内永ゆか子委員長インタビュー 「人と人とのリレーションから生まれる 新たな日米関係」	15
第1回会員懇談会 講演:近藤 誠一氏 前文化庁長官 「世界文化遺産、富士山と三保の松原 登録実現までの道のり」	17
■Column	
巻頭言 菅田 史朗 「東京オリンピック・パラリンピック開催への期待」	01
リレートーク 斉藤 伸一 「燃え尽きない心」	19
私の思い出写真館 横谷 英之 「建築設計に携わって」	22
新入会員紹介	20
おくやみ 品川正治 終身幹事を偲んで	21

## 「東京オリンピック・パラリンピック開催への期待」

2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決まった。招致活動に携わった方々に心からねぎらいと感謝を伝えたい。多くの国民に具体的な夢と目標を与えてくれたからだ。この決定に多くのことが期待されている中、私は三つのポイントをあえて挙げたい。スポーツをする人の増加、成熟社会の模範例を世界に示すこと、そして防災体制の整備だ。

近年、オリンピックやサッカー、野球など、見るスポーツは大変人気が高く、テレビでもさまざまな競技が放映されている。これらを観戦するという楽しみ方はもちろんあるのだが、自ら体を動かすスポーツの楽しみ方もぜひ広がってほしい。スポーツの面白さには、競い合うゲーム性と、体を動かすことからくる心地よさとがあり、いずれもヒトの本能をくすぐる。手軽なものとしてはラジオ体操、ジョギング、ウォーキングや水泳があり、バレーボールやテニス、ゴルフの愛好家も大変多いので、するスポーツが広がる素地は十分にある。

高齢化がますます進む中、各人がより長く、健全な日常生活を送るために、そして国全体の医療費を節減するためにも、するスポーツの効果は欠かせない。また次世代を担う子どもたちには何らかのスポーツに取り組み、鍛えることによって心身共にたくましく育ってほしい。

前回1964年の東京オリンピックは日本の高度成長の真ただ中で開催され、経済成長の加速に大変な寄与をした。あれから半世紀が過ぎ、日本は成熟期に入り、少子・高齢化や社会インフラ老朽化の弊害が表れつつある。しかし先進各国も同じ悩みを抱えており、韓国、中国などアジアの国々も今後急速に同様の状況を迎えるだろう。日本が交通網や電力システムなど、社会インフラを再整備し、社会保障制度もサステナブルなものにすることによって、「成熟社会で豊かな生活を送る」モデルケースを打ち立てたい。その関連商品やノウハウを世界に広げることによって、日本は自身の成長も図ることができ、世界への貢献もできる。

一方、東京はいずれ遠くない時期に関東大震災並みの大地震に見舞われる可能性が高いとされる。今回の首都圏インフラ整備に当たっては、ぜひ防災、減災の視点を強く盛り込んでもらいたい。いずれにしても期待の膨らむ東京開催である。

今月の表紙:世界の文様シリーズ

### 【ボルネオノブア・クンプ】

ボルネオ島の先住民族のダヤク族の伝統文様です。懐かしさに似た親しみを感じるデザインです。ブア・クンプとは伝統工芸織物で、人生の重要な節目の儀式で用いられるそうです。